

多摩デポ通信 第53号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2020年2月5日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP / <https://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

いま、あらためて 都立中央図書館見学と 保存計画・事情を聞こう

都立中央は全国の公共図書館の中では、資料の修復、保全の部署があり担当者が置かれた大変希少、貴重な図書館です。だから古文書のような文化財ではない、公共図書館の蔵書被災の事態には全国から相談が寄せられ、それに助言や修復援助も行ってきました。12月の講座では、その職員で修復の専門家である眞野節雄氏をお呼びし、経験を聞きノウハウを学びました。

次の多摩デポ講座として、みなで都立中央図書館に行きたいと思います。

①利用者が普段入れない保存書庫②都内広域の郷土資料を集めた(かつて都立多摩図書館にあった多摩資料も集約されている)「都市・東京情報コーナー」③修復作業をしている資料保全室……の三ヶ所を見学させてもらいます。そして現在の、資料収集方針と保存計画をうかがう、という盛りだくさんの講座です。

「百聞は一見に如かず」
それぞれの方に学ぶことは多いはず。そこから次のことを。ぜひ一緒に！

第38回多摩デポ講座・見学会

「都立中央図書館の保存、修復—見る・聞く—」

- ・日時：3月2日(月) 午後2時～3時30分
 - ・会場：東京都立中央図書館
(東京メトロ日比谷線 広尾駅下車1番出口から徒歩8分)
 - ・集合：午後1時50分 中央図書館職員入口
- *多摩デポへの事前申し込みが必要です
*参加したい方は2月24日(月)までに
E-Mailで(宛先 depo_tama@yahoo.co.jp)へ
お名前と所属をお知らせください
必ずご返事をいたします
(多摩デポ会員でない方も参加できます)



第37回多摩デポ講座 実施報告

事務局 雨谷逸枝

12月7日(土)の午後6時30分から9時まで、国分寺労政会館第3会議室にて、第37回多摩デポ講座「水濡れから本を守るう、本を救おう！」災害多発の今、知っておきたい知恵と技〜」を開催しました。講師は長年、都立図書館で資料の修繕・修復および保存に携わってこられた眞野節雄さんです。



「気にはなるけれど、時間と技術が必要なので……」とついつい他の業務を優先してしまいがちですが、今回の講座では、日常的によく出会う「塗工紙の水濡れ」を救済する方法を実演を交えて知ることができるといふことで、会員外の20名を含む38名の方にご参加いただきました。現役職員の参加があったのは喜ばしいことでした。

開口一番に、「図書館資料は”文化財”でないから、救わなくてもいいのか」との厳しい問題提起がありました。市民やマスコミは、図書館が被災したと聞くとすぐに「本はどうなった？無事なのか？」と聞くが、図書館員は違う。水害にあった地域に文化財関係者によるレスキュー応援が入った時、図書館員が依頼したものは行政文書のみだった

とか地域資料の修復を断るなどの現実遭遇して、眞野さんが強く抱いた思いでした。図書館員は、「地域資料など、他の地域では持つていない”宝”、代替の利かない資料を保全することにもっと関心をもってほしい。災害のような危機の時、資料は残そうという強い思いがなければ決して残らない」と話されました。また、「長い間、保存と利用は相反するものと思われてきたが、日本図書館協会資料保存委員会では、”利用のための資料保存」ということから、5つの方法―防ぐ、点検する、治す、取り替える、捨てる―を提起している。これをしっかり念頭においてほしい」とも話されました。

都立図書館のホームページで公開している動画「大津波からよみがえった郷土



の宝―陸前高田市立図書館郷土資料の修復」を観た後は、会の始まる前にバケツの水につけてびしょ濡れにしておいた『図書館雑誌』の修復実演でした。そのまま乾かすと表面の糊で貼りついて固まる塗工紙の対処について、水分をふき取る道具や加減の仕方、乾燥の目安などの丁寧な説明を聞きながら、目前に見る鮮やかな手技に驚きの声が出ていました。

「塗工紙は急いで乾かさ

ずにむしろ、まず水に浸けることで修復が可能になる！」なるほど、数ページごとに新聞紙などの吸水紙を挟み込み、数回その吸水紙を取り替えればパラパラと開けるようになりました。これは、これまでの文献にも見つからない手法だそうで、世界に知らせたい大発見かもしれない。時間がかかるが意外に簡便な技術には、チャレンジ意欲を掻き立てられた方も多かったようです。

講座内容をより詳しく知りたい方は、『水濡れから図書館資料を救おう！(JLAブックレット No.6)』眞野節雄編著 日本図書館協会 19年10月刊をご覧ください。

『みんなの図書館』3月号「各地のたより」欄にも、事務局員 蓑田明子による詳細な報告を載せさせてもらいました。



多摩デポ講座に参加して

調布市立図書館
加藤あゆみ

長年、都立図書館で本の修復に携わってこられた眞野さんのお話を伺えるというだけでも、この講座に参加する意義があると思えますが、加えて今回は実演もあるということ、いつもより参加者が多く、しかも現役の図書館員の割合が大きかったそうです。

前半は、東日本大震災の津波で被災した陸前高田市立図書館の郷土資料を救済したお話を伺い、記録動画を拝見しました。実際に復元された資料も持ち出たのですが、泥にまみれてカチカチに固まっていた資料が、ちゃんと使えるようになっていたのを見て、とても驚きました。

図書館に勤めていると、汚破損資料の修理は日常的な悩みです。修理の棚にはほぼ毎日、多くの汚破損資料が置かれ、棚はいつも満杯状態。特に水濡れの資料は手がかかるうえに、満足できる状態に修理できた例がほとんどありません。なんとかしたいと思っただけでも、修理専門の職員がいるわけでもなく、修理に携われる時間も限られていることを言い訳にしてあきらめてしまうことが多く、「図書館員は本当に本を救おう

としているのか」という眞野さんの言葉が胸に刺さりました。

後半は、水濡れの状態の雑誌を修理する過程を実演していただきました。目の前で作業の様子を拝見することで、普通の紙と塗工紙の違いや、吸水紙の挟み込み方などがよくわかりました。印刷されたコピー用紙や新聞紙を吸水に使うと、文字がうつると思っていたので、職場では水濡れの資料に裏紙を挟むときも、印刷面が当たらないようにカットしたものを使っていたのですが、水溶性のインクでなければ大丈夫とのこと。新聞紙も使えるのであれば事前に準備しておくことで、現在よりも作業が少し楽になるのではないかと思います。あと、きれいな水で濡らした塗工紙はくっつきにくいというお話も興味深く伺いました。しかし、いく



らひどい水濡れ状態であっても、自分自身で図書館の蔵書を水道水で洗うのは、とても勇気がいります。吸水紙についても水道水の件についても、職場の環境で実験してみても、取り入れられるところを活かしていきたいと思います。

あつという間の2時間半もつとお話を伺っていたと思いますのは私だけではないと思います。今回残念ながら参加できなかった方のためにも、ぜひ次の機会を設けていただければ嬉しいです。

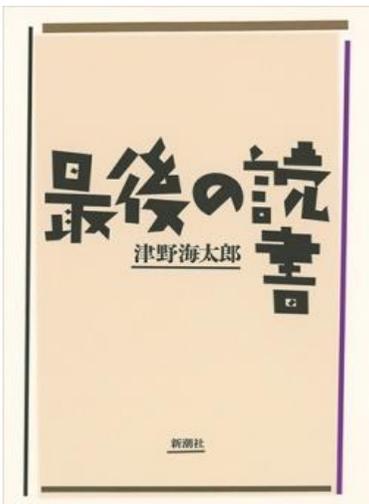
これだけは読んでほしい 資料被災修復の要点

- 燃える、水濡れ、落下し破損、破損したガラス類を被る
それら資料の災害で頻発し、苦勞するのは「水濡れ」。だから対策を。大切な資料は保管箱への収納がベスト。そして床置きするのは禁物。しかしもし水濡れしてしまったら…。
 - 最初に塗工紙が混じる資料がチエック。混じれば、濡れたままポリ袋へ入れる。水道水で洗浄する時間があれば、まず洗浄。
 - 48時間以内に処理できるなら洗浄して数ページ毎に吸水紙を挟み、上から押して丁寧に水気を抜く。紙は数回替えよう（新聞紙でかまわない。）
↓そして自然空気が乾燥へ。
 - 48時間以内の対処が無理なら、貴重度の高い資料を入れられるだけ冷凍庫へ。作業できる分だけを順次解凍して、洗浄して水抜き作業をしていく。
- ☆困った場合は、躊躇せず関係機関に相談しましょう

顧問 津野海太郎さんの『最後の読書』新潮社刊が第71回読売文学賞の【随筆・紀行賞】を受賞されました！

この本の元は、新潮社の『Webでも考える人』に17年から18年にかけて17回連載されたエッセイ。のつけから自分の「若い」を率直に表明し、柔らかな書き進めた日々の読書記録の体裁を取っています。鶴見俊輔や山田稔、宮田昇、明仁上皇・美智子上皇后、紀田純一郎など、数多くの（本を読む）老いの先人の〈読む・書く・見る〉に関する振る舞いを紹介し、ご自分に引き比べていきます。

おのずと、本の活字の大きさの問題や、長いものは一気に読めなくなつた、硬いものはもう、そして記憶力の減退な



ど（症状）を語り、電子書籍や図書館の使いようにも触れられます。

そして戦後十数年間の時代風景と読書少年の記憶を本も紹介しながら振り返る。ほとんどが今入手できる本か新著をダシに……。

老人読書は（将来のため読む）とは違ふと述べながら、何と豊かな読書生活なのでしよう。

「津野さん、腕を上げたな」。昨年出た別の対談本で、黒川創氏が津野さんに話していました。（H）

図書館長協議会 除籍資料担当者会へ出席

12月18日(水)午後、西東京市で市町村立図書館長協議会の除籍資料担当者会がありました。多摩地域の各自治体図書館の、蔵書の保存と除籍の担当者の集まりで、2年前から活動を始めています。どの図書館も保存スペース不足に悩む中、情報交換や保存・除籍のルール作りなどを検討しています。

この日は、図書館間の話し合いではなく多摩デポと(株)カーリルのやっていることとの質疑の会ということで、呼んでもらいました。まず掘事務局長から多摩デポの活動経過と考えていることを伝えました。その後、(株)カーリルの吉本氏にバトンタッチし、主に、今年度になって(各自治体からもらった意見・要望を元に)若干の改良を加えたTAMALAS新バージョンを紹介し、

一括検索システムのデモを行いました。

既に多摩デポに、一括処理システムのID、パスワードを申請している市の経験を聞くことも予定されています。それは私達も知っていたことですが、活用実態はまだほとんどなかったり、(同じ自治体の)別の図書館で使っているとのことで、中身のある情報は得られませんでした。

各自治体が採用している図書館システムの一覧が資料として配布されたりして、図書館システム会社のSEの方の出席も予定されたようでしたが、依頼が急で間に合わなかったようでした。

質疑の中で「希少資料と貴重資料は違う」という意見も出しましたが、「検索結果をどう使うかは別にして、一括処理システムは自分の市の業務にも使える」とも言ってもらえました。

この会の後、一括処理シス

テムの申請があり、1月末現在、ID、パスワードを発行しているのは8自治体になりました。使ってみて、ご意見もください。

今後、担当者が検討する予定という、資料保存ガイドライン作成の動きにも注目していきます。

里親探し事業の実績

12月に今年度最初の里親探しの依頼がありました。『世界の博物館』全23冊という全集の提供の申し出で、さっそく未所蔵館や欠本のある館を調査した上で、多摩全体に広報しました。応募は3自治体から計5冊あり。提供館から預かって、多摩デポが届けに行きました。なお国会図書館にも1冊欠本あり、(この巻への応募は無かったの)、提供申し出の市には、国会図書館への寄贈をすすめておきました。

多摩デポ理事退任の弁

矢崎省三

今年の間ドックで病院から「70歳からはバリウムの検査は出来ません。内視鏡検査になります」と言われた。胃カメラは嫌いだっただが仕方ない。結果これが幸いだっただ。

鼻からの胃カメラは楽だと聞いていたがかなりきつい。医師はモニターを見ながら説明してくれるのだが、どうにも辛くて目を閉じていた。「組織を数ヶ所採取します」の声に“?”マークが浮かんだのだが大して重要さを感じなかった。「組織の検査は保険料外になります」の看護師の説明に医師は「いえ保険適用です」と。ラッキーと思っただが頭の中は?????「結果



は電話で連絡します」。

電話で呼び出された病院で人間ドックの医師は、「呼び出されたから想像が付いたと思いますが、採取した4ヶ所全てからがん細胞が見つかりました」。これだけでもショックなのにさらに「嫌な話もおこななければなりません」と言う。癌宣告以上に嫌な話とは、想像もしたくない。

医師の嫌な話とは、私の癌は「たちが悪い」のだそう。進行性のスキルス胃癌で、初期ではあるがすぐに胃の摘出が必要、このことで消化器外科に廻された。その足で消化器外科に行き40日後の手術の予約（その前の検査で転移が認められれば手術が出来ない。すなわち手術が出来ないことはラッキーとのこと）。若い美人の女性医師は「それまでは何を食っても何をしてしまいません。」とあっさり。

不安そうな私を見ながら医師は、「私は失敗したことはありません」。

その後、流れるように入院、手術、退院と進んだ（退院後も肺炎を併発したり、目が一時的に見えなくなったり、逆流性胃炎とかあるが闘病記ではないのでこの辺で）。

昨年からは、どうにもやる気が失せて気がわかない。10年続けた大学の非常勤講師も辞め、多摩デポの理事も降ろさせてもらったのだが、気が出ない理由がこれだったのかと妙に納得した（科学的根拠はなにも無いが）。

これが多摩デポ理事を降ろさせてもらった主な理由です。

理事を降りたとは言え協力は惜しみませんので使ってください。体調次第ではありますが。

(2019.12.5)

会計担当から

今年度の会費の納入がまだの方には振込票を同封しました。
お忙しいとは思いますが、お早めに振込み下さいますよう、お願い申し上げます。

★会の現勢

2020年2月1日現在

●正会員

(個人会員84名)

(団体会員2団体)

●賛助会員

(個人44名)

(団体1団体)

●年会費

正会員(個人・団体) 五千元

賛助会員一口二千元
(個人一口 団体五口以上)

(個人一口 団体五口以上)



□ 今号の内容 □

- ・いま、あらためて都立中央図書館見学と保存計画・事情を聞こう
- ・第38回多摩デポ講座の案内
- ・第37回多摩デポ講座実施報告
事務局 雨谷逸枝
- ・多摩デポ講座に参加して
調布市立図書館 加藤あゆみ
- ・これだけは読んでほしい
資料被災修復の要点
- ・顧問 津野海太郎さん『最後の読書』
読売文学賞【随筆・紀行賞】受賞
- ・図書館長協議会除籍資料担当者会へ
出席
矢崎省三
- ・里親探し事業の実績
- ・多摩デポ理事退任の弁
- ・会計担当から
- ・会の現勢